

Comments and Discussions

XUE Jinjun (薛 進軍)*

中国は1978年により高度成長を維持してきた。その背景は安価で豊富な余剰労働力である。しかし、最近では沿岸部を中心にして、労働賃金が上昇し始めている。安い労働力を武器とした高度成長はどこまで続けられるのか。また、中国もルイスの「転換点」に近づいているのだろうか。これらは中国で大論争になっている問題であり、国際社会も大変に関心をもっている問題である。本論文は中国の経済成長がどの程度就業を創造出来るのか、マクロ経済の統計データを利用して、経済成長が就業に及ぼす牽引効果を検証し、中国の経済成長が大量に就業機会を創造していると結論付けている。また、労働の需給関係の最新の変化および傾向を分析し、労働の需給関係が根本的に転換しているものの中国はまだ労働力不足の時代に歩み入っておらず、今後の20年間に依然として十分な労働供給を維持するであろうことを予測している。一方、労働需給の構造的な問題、非正規労働の増加、および労働の初期所得分配における不平等など、労働市場が直面している様々な問題も指摘しており、より健全な労働市場づくりおよび改革が必要であることを主張している。

氏の論文は視点が斬新であり、考察・論述も充実している。学術的価値の高い論文であると評価したい。また、氏は中国政府の労働政策諮問機関の責任者の一人であるので、本論文で提案された政策が今後の中国经济政策に反映されることも予想される。

* Professor, Graduate school of Economics, Nagoya University.
名古屋大学大学院経済学研究科教授